

第1章 正の数・負の数

2 正の数・負の数で量を表すこと

＜目標＞ 正の数・負の数を使って、①反対の性質を持つと考えられる量 ②ある基準からの増減や過不足を表し、正の数・負の数の意味について理解する。

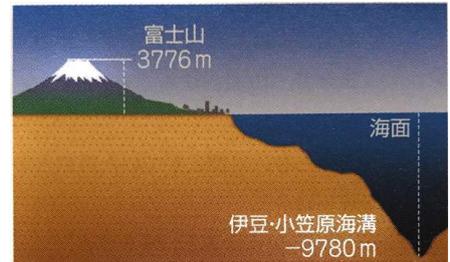
[教科書P17] ①反対の性質を持つと考えられる量

「ひろげよう」より

○「伊豆・小笠原海溝 -9780m 」はどんなことを表しているか

→海面から海底までの深さが 9780m である

※たがいに反対の意味を持つと考えられる量が正の数・負の数を使って表されている。



【例1】 5000円の収入を「 $+5000$ 円」で表すとき、
4000円の支出は「 -4000 円」と表される。



→※「収入」の反対は「支出」であり、ふつう、収入は正の数を使って表すことが多い。

【例2】 ある地点から2km東の地点を「 $+2\text{km}$ 」で表すとき、
ある地点から3.5km西の地点を「 -3.5km 」で表される。

→※「東」の反対は「西」であるが、東西の場合は、どちらが正の数かは、決まっていけないので、あらかじめ決めておく必要がある。
もし、西の地点を「 $+3.5\text{km}$ 」と決めれば、2km東の地点は「 -2km 」と表される。

教科書P17の 問1 をやりなさい。
※家庭学習ノートにやりなさい。

-500 円

[教科書P18] ②ある基準からの増減や過不足

【例3】 10得点を基準に考えるので、
→16得点は基準より6点多いので「 $+6$ 得点」
→7得点は基準より3点少ないので「 -3 得点」と表される。

教科書P18の 問2 をやりなさい。
※家庭学習ノートにやりなさい。

曜日	月	火	水	木	金
利用者数	210	195	203	193	200
目標との違い	$+10$	-5	$+3$	-7	0

※正の数・負の数を使うと基準からの増減が見やすいことがわかる。

反対の性質をもつ量は、
負の数を使うと、一方のことばだけ
で表すことができる。



5 個少ない - 5 個 **多い**
9 cm 短い - 9 cm **長い**
6 kg 軽い - 6 kg **重い**

教科書P18の 問3 をやりなさい。
※家庭学習ノートにやりなさい。

(1) - 4 個多い
(3) - 3 kg 重い

(2) - 6 cm 長い
(4) - 10 円余る